

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400651	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	
法人名	株式会社 サンライズ・ヴィア		
事業所名	サンライズホーム瀬谷市民の森		
所在地	(〒246-0003) 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町5631-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	通い定員	名
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

GHでありながらお看取りまで生活支援をさせて頂いております。 また、ホーム内に重度の方が増えると軽度の方の支援がおおそかになりがちですが、常に生活支援資源（マンパワー）のバランスを考え、ご家族様と相談を繰り返しながらご入居頂く全てのご入居者様にご満足頂ける「生活のあり方」を模索しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下ビル8階		
訪問調査日	平成29年1月30日	評価機関 評価決定日	平成29年8月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概況】 事業所は開設10年目を迎え、相鉄線瀬谷駅下車、バス乗車にて最寄りバス停留所「東台」下車3分、住宅地を通った一角にある。2階建て2ユニットの建物の玄関へは道路から緩やかなスロープが続いている。事業所隣りは、ゴルフ練習場があり、周辺は自然豊かな市民の森や畑、元駐留軍基地の広大な跡地が点在する閑静な住環境である。</p> <p>【利用者本位への取り組み】 職員はケアにあたって利用者を常に自分に置き換えて、もし自分であったら「どうするか、どうしたら良いか、どうして欲しいか」などを考えるようにしている。家族とも相談しながら利用者に寄り添い、利用者本位を念頭にいつもやさしさとほほえみをもって理念の実践に努めている。</p> <p>【自立に向けた支援】 長年、高齢者施設で従事した経験を有する管理者を中心に、事業所開設以来9年から7年の豊富な経験を持つ職員を擁している。管理者と職員のチームワークを基に家族と相談しながら、利用者の自立に向けた支援を行っている。例えば食事については、家族と相談しながら、安易にトロミやキザミに形態を変えず、利用者の嚥下や咀嚼の能力維持に向けた支援をしている。ケアについても、リスクの予測と検討をしながら、過剰なサービスに至らぬように努めている。</p> <p>【看取りへの取り組み】 看取りに対する事業所理念、重度化への対応、医療連携体制、家族の意向を踏まえたターミナルケアなどの明確な指針がある。家族や職員との共有化を図り、さらに研修を重ねて看取りに取り組んでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	サンライズホーム瀬谷市民の森
ユニット名	1階ユニット やわらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の場で管理者を含めて理念の唱和をしており、さらに数ヶ月に一度理念の確認のための研修を行なっている。	事業所の理念は、法人の理念や経営方針と共に玄関ホールの収納庫ドアに掲示し、申し送りの際に唱和して共有している。職員は、常に利用者の立場に立って利用者の思いを優先し、やさしさやほほえみをもって理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム所在地の町内会には所属しているが「日常的」な交流は持っていない。ご入居者様のお散歩の時にご挨拶をする程度。	旭地区自治会に加入し、回覧で地域の情報を得ている。利用者の現在の心身の状況に馴染まないため地域の行事には参加していないが、事業所前の道路の地域清掃に参加している。カラオケやハーモニカ演奏、写真撮影などのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、主だった地域貢献は出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催回数が少ないが、情報公開は行なっている。	運営推進会議は、今年度1回の実施でまだ軌道に乗っていない。メンバーは自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者である。会議では活動報告の他、参加者との意見交換をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回を目途とした開催を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取っていない（連絡を取る用件が無い）	瀬谷区の高齢・障害支援課とは、要介護認定更新時などに連携し、情報交換をしている。生活支援課とは、生活保護費などについて意見交換をしている。横浜市グループホーム連絡会瀬谷・旭ブロックに加入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束は行っていないが、玄関施錠及び各ユニットの出入り口は施錠している	「身体拘束ゼロの手引き」を備え、年間職員研修で周知徹底をしている。日頃スピーチロックなど、気になる言葉遣いがあれば、その都度注意をしている。玄関やユニット入り口のドアは保安上、施錠をしている。利用者が外に出ることを望む時は見守り同行をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修を行い、知識の周知を図ると共に倫理観の向上に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期研修にて学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の際・入居の際と、数度に重ねてお客様の疑問点を解消できるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様とコンタクトを取るようしており、援助に関するご要望を承った場合にはケアプランへの反映或いは日々のケア内での反映を行なっている。	家族には運営推進会議や面会時、電話連絡で要望や意見を聞いている。利用者の自立支援にあたって、リスクについては家族に詳細に説明し意見を聞いている。外出の機会を増やしてほしいなどの要望は運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスを月に一度開催しており、その場で意見交換をしている	毎月の各ユニットのカンファレンスでは、職員からサービスや運営、ケアプランなど活発な意見や提案がある。雇用契約時の個人面談の際も希望や要望を聞いている。管理者は日頃職員が自由に意見や希望を言える雰囲気を作っている。行事やイベントの企画、提案は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体の本社と連携を取り、賃金規程や給与テーブル、人事評価制度を主体に職員の労働環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は現在行っておらず、事業所内の研修のみ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会の地域ブロック会に加盟しており、交流の機会を持っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居間もない間はケアプランを「入居暫定」とし、ご要望のヒアリングと見直しの機会を多く設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居間もない段階においてはご家族様との連絡を密にし、ご要望ご意見を聞き取るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のケアプランを「暫定」とし、検討・意見聴取の機会を多く設けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来は職員がやれば済むようなホームの雑務もご入居者様を巻き込んで行い「一緒にホームで暮らしている」という実感を持っていただけるよう取り組みを行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご意向は出来る限り聞き取りを行い、ホーム側が一方的に何かを決めるような姿勢をとらないようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご要望やご依頼が無い為、行なっていない ご要望があれば対応可能	利用者の馴染みの美容院に通うことや正月の一時帰宅などを家族の協力を得て継続支援している。知人や家族との電話や手紙のやりとりも支援をしている。利用者から酒やたばこのなどの嗜好品の希望があれば家族と相談し対応する方針である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現実に個々に思い思いの暮らしをされる方が多いため、関係性の構築は無理強いしないようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望やお問い合わせがあった時には相談支援を行なっているが、現実的にはそのようなご要望はほぼ無い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	聞き取りが出来る方には行い、そうでない方には行動・発言・ご家族様のお話からご本人のお気持ちを汲み取り組みをおこなっている	経営方針に沿って、利用者が第一と捉え、利用者の立場に立って思いや意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な利用者は仕草や表情を見て汲み取っている。把握した内容は、カンファレンスで共有し、ケアやプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を分析し、思い思いの生活が出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスの場で検討・情報共有を行なっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご意見・ご意向を伺う場を設けて行なっている	アセスメントを基に介護計画書を作成し、計画に沿った実施記録を経過記録表に記入している。評価は毎月行い、ケアマネジャーは、担当者会議を開いて職員や家族の意向を聞き、計画に反映している。見直しは、通常半年または1年ごとに行っている。看取りの介護計画書は3ヶ月または随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケアプラン実施状況チェック表」を作成し、モニタリングの一助としている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内にとどまらず、ホーム外の社会資源を探し、活用できる場合には活用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用できるレベルの方にはご利用頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が往診に来ており、適切な医療が受けられている	入居前の主治医を継続している利用者もいる。協力医療機関の内科医は月2回、歯科医は週2回往診している。眼科医は2ヶ月ごとに希望者の診察をしている。看護師が週1回訪問し健康管理している。協力医は24時間オンコールである。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「看護師連絡表」なるものを用意し、往診日に看護師からつながられるよう介護職員との連携を強めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に行なっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族様、ホームが臨席するカンファレンスを開催し、合意形成の場を設けている	事業所の「重度化した場合における（看取り）指針」は、契約時に説明し同意を得ている。看取りを実施の際は、医師の指示により、看取り介護計画を作成している。職員が看取りに対する心構えを持てるように、看取りテキストを基に研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期研修にて行なっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて対応している	防災訓練は、夜間想定訓練を含めて年2回実施している。緊急連絡網を整備しており、緊急時には10分以内に駆けつけられる職員が数名いる。災害備蓄は3日分の食糧・水を備え、リストを作成し本社で管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇担当者を設けて接遇レベルの維持に心がけている	年間研修計画の中の接遇研修で周知している。日頃排泄時や入浴の際、ドアの開閉や声の大きさ、声かけの仕方などについて指導をしている。個人情報に関する資料は厨房室収納庫や事務所で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定やご本人様のやりたい事を聴取する機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の思いの通りにお暮らしいただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容に力を入れて支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は行なっていないが、お皿洗い等のお手伝いはしていただいている	食事は、近隣にある同法人の介護老人福祉施設から配達があり、利用者の状態に応じて、形態を変えて提供している。夏祭りや誕生会、クリスマスなどには行事食を提供している。回転ずしなどの外食の機会も設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録に取り、状況を見つつ支援に当たっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	そのようにしている	トイレは、表示マークがあり、場所が分かり易くなっている。家族の意向もあり、出来るだけ座位をとり、自力で排泄を促している。失禁した場合は、さり気なく声をかけトイレや浴室に案内し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合ではないが、実務上スケジュールリングをしなければ立ち行かないのでスケジュールに沿って入浴対応をしているが、拒否があった場合などは順番・曜日を入れ替える等柔軟な対応をしている	入浴は原則週2回が原則であるが、希望により時間や回数は柔軟に対応している。湯は一人ひとり取り替えて清潔を保っている。入浴を好まない人には、時間を変えたり、声掛けを工夫し入浴を促している。浴室にはエアコンを設置し、ヒートショックの防止している。ゆず湯や菖蒲湯で季節を味わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の介助をおこなっており、毎日順番に屋外に出られる支援を行なっている	日常の散歩は、事業所の周辺に3コースほどある。歩行の困難な利用者や車いすの人にも個別に対応をしている。近くのコンビニや外食に行く利用者もいる。江ノ島水族館などに、ドライブを兼ねて外出する機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社の方針でお金は持っていないのをお基本としているが、ご家族様から特別にご要望があった場合は別途ご相談としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現実、そのようなご要望が無く実例が無いが、ご希望があれば対応可能		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている	リビングは清潔で明るい。椅子やテーブルはゆったりと配置しており、くつろげるようになっている。訪問時は新年の名残りの絵が掲げてあった。厨房と共用空間全体を見守ることが出来るように2名の職員を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている	防炎カーテンやベッド、エアコン、クローゼット、照明が備わっている。利用者は馴染みの人形や縫いぐるみ、家族写真、時計、テレビなどを揃えている。表札は一人ひとり小物が貼ってあり、分かり易くなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのようにしている		

事業所名	サンライズホーム瀬谷市民の森
ユニット名	2階ユニット かがやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の場で管理者を含めて理念の唱和をしており、さらに数ヶ月に一度理念の確認のための研修を行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム所在地の町内会には所属しているが「日常的」な交流は持っていない。ご入居者様のお散歩の時にご挨拶をする程度。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、主だった地域貢献は出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催回数が少ないが、情報公開は行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取っていない（連絡を取る用件が無い）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束は行っていないが、玄関施錠及び各ユニットの出入り口は施錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修を行い、知識の周知を図ると共に倫理観の向上に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期研修にて学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の際・入居の際と、数度に重ねてお客様の疑問点を解消できるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様とコンタクトを取るようしており、援助に関するご要望を承った場合にはケアプランへの反映或いは日々のケア内での反映を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスを月に一度開催しており、その場で意見交換をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体の本社と連携を取り、賃金規程や給与テーブル、人事評価制度を主体に職員の労働環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は現在行なっておらず、事業所内の研修のみ行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会の地域ブロック会に加盟しており、交流の機会を持っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居間もない間はケアプランを「入居暫定」とし、ご要望のヒアリングと見直しの機会を多く設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居間もない段階においてはご家族様との連絡を密にし、ご要望ご意見を聞き取るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のケアプランを「暫定」とし、検討・意見聴取の機会を多く設けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来は職員がやれば済むようなホームの雑務もご入居者様を巻き込んで行い「一緒にホームで暮らしている」という実感を持っていただけるよう取り組みを行なっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご意向は出来る限り聞き取りを行い、ホーム側が一方的に何かを決めるような姿勢をとらないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご要望やご依頼が無い為、行なっていない ご要望があれば対応可能		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現実に個々に思い思いの暮らしをされる方が多いため、関係性の構築は無理強いしないようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望やお問い合わせがあった時には相談支援を行なっているが、現実的にはそのようなご要望はほぼ無い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	聞き取りが出来る方には行い、そうでない方には行動・発言・ご家族様のお話からご本人のお気持ちを汲む取り組みをおこなっている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を分析し、思い思いの生活が出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスの場で検討・情報共有を行なっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご意見・ご意向を伺う場を設けて行なっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケアプラン実施状況チェック表」を作成し、モニタリングの一助としている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内にとどまらず、ホーム外の社会資源を探し、活用できる場合には活用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用できるレベルの方にはご利用頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が往診に来ており、適切な医療が受けられている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「看護師連絡表」なるものを用意し、往診日に看護師からつながられるよう介護職員との連携を強めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族様、ホームが臨席するカンファレンスを開催し、合意形成の場を設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期研修にて行なっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇担当者を設けて接遇レベルの維持に心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定やご本人様のやりたい事を聴取する機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の思いの通りにお暮らしいただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容に力を入れて支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は行なっていないが、お皿洗い等のお手伝いはしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録に取り、状況を見つつ支援に当たっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	そのようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合ではないが、実務上スケジュールリングをしなければ立ち行かないのでスケジュールに沿って入浴対応をしているが、拒否があった場合などは順番・曜日を入れ替える等柔軟な対応をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の介助をおこなっており、毎日順番に屋外に出られる支援を行なっている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社の方針でお金は持っていないのを基本としているが、ご家族様から特別にご要望があった場合は別途ご相談としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現実、そのようなご要望が無く実例が無いが、ご希望があれば対応可能		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのようにしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ・ホーム三頼/市民の森

作成日 2017年10月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催回数が少ない	年に5回以上の開催を目標とする	運営推進会議の年間スケジュールを決める	1年間とする
2	11	職員不足により全体会議やたろしんが延期になることが多くあった。 (延期が中止にひびく)	月に1回の全体会議の開催を目標とする。 (日程を再検討する)	会議の日程調整を介護主任が行い決定した日時を職員全員に通達する	6ヶ月とする
3	36	人格を尊重した言葉かけが出来ていない時がある	ご入居者様への不快な言葉かけや業務中の物音が大きくなるよう配慮する	定期的に研修を行い自分の行動を見直す機会を設ける。月決めの研修スケジュールを作成して行うようにする	1年間とする
4	18	外出行事の機会が減少している。介護度の違いにより柔軟なスケジュールが組めていない	年に2-3回の外出行事が行えることを目標とする	自立度の高い方と介助が必要な方をバランス良く調整してスケジュールングする 個別対応も検討する	1年間とする
5	13	新人教育が行えず職員が少ない。教育マニュアルがないため統一感がない	OJT研修がきちんと行える施設を目指す	新人育成マニュアルをリーダーが作成する。本社で行う研修にも参加して知識をつける。	1年間とする

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。